

日時：2013 年 11 月 16 日 (土) 13:00~17:30

場所：日本液晶学会事務局 (株) アドスリー 会議室

出席：高津晴義、清水 洋、熊野厚司、川月喜弘、齋藤一弥、多辺由佳、山口留美子、高頭孝毅、分元博文、辻 知宏、遠藤秀幸、橋本雅司、陶山史朗、平野幸夫、舟橋正浩

欠席：

諸星宗一 ((株) アドスリー, 事務局)

## 総務委員会

### 報告および審議事項

#### [報告事項]

1. 各委員会年間スケジュール表の作成 (別紙)
2. 定款の変更

第 4 条および第 32 条の変更案 (2012 第 4 回理事会) について弁護士の飯島純子先生からの修正案を加え下記を理事会案とした。

第 4 条 当学会は、前条の目的を達成するために、次の事業を行う。

- (1) 液晶の科学および技術に関する調査
- (2) 討論会、講演会、講習会、研究会フォーラム等の開催
- (3) 会誌その他図書の刊行
- (4) その他前条目的を達成するため必要な一切の事業

第 32 条 理事及び監事の任期は、選任後 2 年以内に終了する事業年度のうち最終のものに関する定時社員総会の終結のときまでとする。理事は再度就任することはできるが、副会長から会長に就任する場合を除き連続就任を不可とする。

#### [審議事項]

1. 委員会の統廃合について (継続審議)
2. 次年度役員数 理事 14 名 (継続 7 名、改選 7 名) 幹事 2 名 (継続 1 名、改選 1 名) (承認)
3. 次年度代議員数について 30 名 (15 + 15) (承認)
4. 各種委員会の設置 (承認)
  - (1) 表彰委員会：委員長 清水副会長、幹事 齋藤総務理事、委員 審議継続
  - (2) 選奨委員会：表彰委員会に統合
  - (3) 役員選考委員会：委員長 熊野副会長、幹事 川月総務理事、委員：多辺財務理事 + 理事以外の正会員若干名
  - (4) 代議員選任委員会の設置：委員長平野研究会理事、委員高頭編集理事、辻理事 + 理事以外の正会員若干名
  - (5) 役員候補者選挙管理委員：多辺理事、齋藤理事
  - (6) 代議員選挙管理委員：遠藤理事、橋本理事
  - (7) 名誉会員審議委員会：高津会長、委員 清水副会長、熊野副会長、川月総務理事、齋藤総務理事  
3 回理事会で状況報告、6 月 4 回理事会で選定
  - (8) 将来ビジョン検討委員会：(継続審議)
  - (9) 国際化推進委員会：委員長 清水副会長、委員 舟橋理事

## 財務委員会

### 報告および審議事項

#### [報告事項]

#### 1. 会計士との契約打ち切りについて

一般社団法人化に伴って 2011 年 12 月より会計士事務所と顧問契約を行っていたが、決算業務の大部分は事務局の経理担当者によって行われ、また法律上も必要ないことがわかった。これをうけ、2012 年 6 月いっばいで顧問契約を打ち切った。ただし、年度ごとの決算処理は専門業務として会計士に依頼する必要があるので、今後、顧問契約はせずに決算処理のみを依頼することとした。(費用は 10 万円)

#### [審議事項]

#### 1. 学会費の値上げについての検討(継続審議)

今回決議する必要はないが、議論を始めるべき問題として提案する。

## 編集委員会

### 報告および審議事項

#### [報告事項]

論文賞 B 該当記事を全文 HP で公開した。(前回承認事項)

① 10 月号に過去記事一覧を掲載。(前回承認事項)

② 10 月号 10/25 発行済(64 頁)

③ 1 月号 巻頭言(Dr. M. Schadt), 名誉会員, 学会賞, 総説 1, 解説 4, 研究室紹介, 学会報告 6, (WEB)(正式依頼済み)

④ 4 月号 学会賞特集号 巻頭言(清水副会長) 総説 1 解説 6 研究室紹介 (正式依頼済) 頁数が多くなる可能性大。

⑤ 7 月号 巻頭言(小林先生) 総説 2, 解説 2, 研究室紹介

⑥ 壮光舎印刷(株)に原稿のテンプレートの作成を依頼し、7 月号から実施することになった。

⑦ 経費削減検討

(1) 1 巻の担当を 4 名から 3 名に削減した。

(2) 旅費辞退の可能性に関するアンケートを実施。現在企業の委員はすでに旅費を辞退。大学の委員は旅費を辞退した場合ほとんどが自己負担になり、地方からの参加が困難になる。このため旅費の支給の実施は不可欠との結論に至った。

(3) スカイプ等を使った会議はできない企業が多く、地方の大学の委員だけスカイプで参加する形体等を検討したい。

#### [審議事項]

① 過去記事の取り扱いについて(前回の理事会の審議未了事項)(継続審議)

9 月 8 日に過去記事の取り扱いに関する WG(物部先生(産総研)、諏訪先生(ソニー)、笹田先生(JNC 石油化学)、大越先生(千歳科学技術大学))を開催し以下のように提案をまとめた。

(1) 会員には全記事がダウンロードできるようにする。

(2) 非会員は最近 5 年間は非公開・それ以前は有償とする。

(3) HP からアクセスできることが好ましいが CiNii の活用も考える。

② 学会・会議報告の執筆者選定をメーリングリストで広く公募したい。(承認)

③ 4 月号の記事は学会賞関連記事になり編集委員の検討の余地がなく決まってしまう。4 月号担当委員を学会賞審査委員に加えることについて(承認)

## 情報委員会

### 報告および審議事項

#### [報告事項]

#### 1. 情報担当理事、情報委員会の仕事内容見直し

編集委員会との統合にともなって、情報担当理事の仕事や情報委員会のあり方の見直しを行ない、内容を整理して総務理事、事務局等への引き継ぎ等を検討する。今後、理事会で議論していただく予定。たとえば、

- ・WEB掲載の承認 → 総務担当理事
- ・WEBページの管理 → 編集・情報担当理事、総務担当理事
- ・討論会や講習会の報告依頼 → 行事担当理事
- ・名簿、メーリングリスト作成・確認作業 → 事務局
  - ・情報委員会の存続、等

## 2. WEB ページに JLCS 英文紹介を掲載

前会長の中村先生に提案いただいた内容をベースに、学会紹介を中心とした英文情報をWEB ページに掲載する。

### [審議事項]

#### 1. 2013 年度情報委員会メンバーの承認について (承認)

分元 (ジャパンディスプレイ)、辻 (高知工科大学)、能勢 (秋田県立大)、石川 (東工大)、森武 (防衛大)、小村 (ジャパンディスプレイ)、城田 (理研)、木村 (長技大)、伊達 (NTT)  
(下線のメンバーをコアメンバーとする)

## 行事委員会

### 報告および審議事項

#### [報告事項]

#### 1. 2014 年液晶討論会会場視察

2014 年 9 月に開催予定の討論会の会場であるくにびきメッセの視察を実施。会場 (別表 1) の広さに問題はなく、また補助金に関して下記の説明を受けた。(大分大学 氏家教授同行)。

- ・ 松江コンベンション開催支援補助制度

延べ宿泊者数 500 人以上 1,000 人未満 375,000 円

1,000 人以上 2,000 人未満 750,000 円

(国際大会で外国人 10 名以上の場合、外国人 1 人当たり 5,000 円を乗じた金額を加えた額が加算)

- ・ 島根県学会等開催支援事業費補助金制度

全国大会 延べ宿泊者数 500 人以上 1,000 人未満 1,000,000 円

1,000 人以上 2,000 人未満 1,500,000 円

国際大会 延べ宿泊者数に 5,000 円を乗じた額。限度額 7,000,000 円

- ・ その他、松江市歓迎看板、郷土芸能の提供、松江市コンベンション観光バスの手配の支援が可能

#### 2. 2014 年討論会形式について

一般講演、ポスター発表に加え、英語セッションを設け、国際会議形式とする。エクスカージョンもあわせて企画予定。

#### 3. 2013 年液晶討論会収支報告 (暫定)

2013 年 9 月に開催された討論会の収支報告 (暫定) を別表 2 にまとめた。暫定ではあるが、約 89 万円の黒字となった。金額の詳細を確認後、承認事項として理事会に計る予定。

#### [審議事項]

#### 1. 日本液晶学会 協賛および主催行事について (承認)

学術振興会 142 委員会主催で 11 月 20 日に開催される研究会 (別表 3) について、日本液晶学会の協賛行事としたい。また、研究会後の懇親会を日本液晶学会の主催行事として実施する予定 (別表 4)。尚、上記は学術振興会 142 委員会から了承済。

#### 2. 講演会開催について (承認)

2014 年 9 月に開催される討論会開催にあわせ、下記のように講演会を実施したい。

- ・ 日時 2014 年 9 月 7 日 (日)

- ・ 場所 くにびきメッセ (島根県松江市)

- ・ 本講演会は昨年度のサマースクールの代替として位置づけ、チュートリアル的な内容を中心とするが、具体的な内容については、運営委員会を中心に決定。

- ・ (サマー) スクールの代替としての位置づけは今回のみとし、以降のスクール開催に関しては、関係者を中心に議論、今年度中に目処をつける。

## 会員委員会

### 報告および審議事項

#### [報告事項]

1. 会員数の確定 2013年8月31日現在)
2. FPDDI 展出展 : 出展内容(配布物、展示物)及び支出内訳

#### [審議事項]

1. 入退会者の承認 (承認) 会員数確定状況 (2013年8月31日時点)
2. 2014年FPDI 出展について (承認)

2014年度のFPDI 展に関しては、開催されない公算が大きい。このため、日本液晶学会が出展するべき他の展示会があれば、ご提案願いたい。但し、13万円ほどの経費がかかっていることを念頭におき、コストパフォーマンスを考える必要がある。なお代替案で、ディスプレイ国際ワークショップ (IDW '13) 開催時に、入会案内パンフレット・討論会 CD-ROM を Take Free デスクへ設置することとなった。

## 研究会・国際委員会

### 報告および審議事項

#### [報告事項]

1. 分子配向エレクトロニクスフォーラム・化学材料フォーラム主催  
「瀬戸内ソフトマター祭り」

時期：平成 25 年 7 月 12 日 (金) 13:20~17:30

場所：香川大学工学部 (林町キャンパス) 6号館 (総合研究棟) 6305号室

講演終了後、塩江温泉新樺川観光ホテルに移動

参加人数 23人

参加費：正会員 3000円、非会員 5000円、学生会員 1000円、学生非会員 2000円

2. フォトニクス・光デバイスフォーラム

「電磁波から見た液晶の魅力を見つめる勉強会 ~回折格子からメタマテリアルまで~」

日時：2013年9月7日 (土) 午後 13:00 ~ 17:30

会場：大阪大学 豊中キャンパス (液晶討論会と同じ会場)

参加費：会員 2,000円、非会員 3,000円、学生 (会員・非会員とも) 500円

趣旨：液晶と可視光線との関わり合いは、ディスプレイ応用として開花し、製品としての完成度もピークを

3. 全フォーラム合同講演会 「一温故知新：液晶科学の先にあるもの」

日時 2013年10月31日 (木) 13:00 ~ 17:00 (懇親会 17:30~)

場所 株式会社東陽テクニカ 本社ビル (東京)

参加人数：58人

講演会参加費：正会員 ¥3000 非会員 ¥5000 学生 正会員 ¥1000 非会員 ¥2000

4. 開催予定

液晶物理・物性フォーラム/ソフトマターフォーラム共催研究会

「二軸性ネマチックス研究の最前線」

日時：11月26日(火) 12:30~17:45頃まで (受付開始 12:00)

会場：大阪産業大学 梅田サテライトキャンパス

参加費：会員・賛助会員 3,000円、非会員 5,000円、学生 (会員・非会員とも) 500円

#### [審議事項]

なし(改革案について、フォーラム内で意見収集中、現時点は審議するまでには至らず)

## ILCC 日本開催検討委員会の立ち上げについて

### 1. 経緯

日本液晶学会の国際活動推進については、この2年間いくつかのイベント開催を実施してきたところ。昨年末には 1st Asian Conference on Liquid Crystals を開催、盛況裏に終了、次回は2015年1月19(月) - 21日(水)に韓国釜山(Busan)で開催を検討中とのことで International Scientific Committee メンバに打診がされた(2013/11/04 メール連絡)。

一方、ILCC は次年在ダブリン(アイルランド)、2016年が米国 Kent State 大での開催が決定されているが、これまでの順番で言えば、2018年はアジア開催の機運。アジアでは1982年バンガロール(インド)、2008年済州島(韓国)のみ。

これまでの我が国での ILCC 開催は1980年の京都、2000年の仙台の2回、次回2018年或は2020年が丁度開催を請け負うタイミング。

### 2. スケジュールの概要

2018年開催で立候補するためには、次年のダブリン大会における International Liquid Crystal Society Board 会議(毎回大会会期中に開催)が最短の立候補表明次期となる。現在我が国からは加藤隆史先生(東大)が委員となっておられる。ちなみに International Scientific Committee には我が国から、池田富樹先生(中央大)、多辺由佳先生(早稲田大)、田中 肇先生(東大)が参画(ダブリン大会 HP)されている。

#### スケジュール案

- (1) ILCC2018 以降に ILCC を実施する意向を確認(今回理事会)。
- (2) ILCC2018 開催立候補について具体的なスケジュールを検討(1月末日処で検討委員会の立ち上げ)

### 3. 検討委員会の役割及び委員案

役割：実施年、時期、場所及びスケジュールを決定

委員：現理事職から4名程度、International Liquid Crystal Society Board メンバー日本側委員1名、International Scientific Committee 日本側委員から1、2名

## The 2nd Asian Conference on Liquid Crystals (韓国主催)の進捗状況について

### [報告事項]

1. The 2nd Asian Conference on Liquid Crystals (韓国主催)の開催経緯について
2. 韓国側からの連絡内容について

## 本年度表彰委員会について(表彰規定の改訂案を含む)

### [報告事項]

1. 今後のスケジュールの概要について
2. 表彰委員会委員案について

### [審議事項]

1. 表彰規定の改定について(継続審議)

2013年度の表彰規定は現行通り運用し、表彰委員会のメンバーのご意見を伺った後に答申案として再度審議事項に挙げることとなった。